

季刊

# ひたすらなるつながり

vol.14

2024年11月

福祉の仕事と楽しく生きる

表紙イラスト atelier minori

寄稿〈01〉福祉論壇 地方創生と福祉

社会活動家／東京大学特任教授 湯浅誠さん

特集〈02-08〉人が好き。人のくらしに関わる仕事が好き。

福祉の仕事と楽しく生きる。

びわこ学院大学短期大学部 辻本 士馬さん

社会福祉法人 琵琶湖愛輪会 西地 宣徳さん

社会福祉法人 さわび福祉会 小川 恵理さん

八幡高等学校 川崎美莉愛さん・石原奏弥さん

連載〈09-11〉えにしのたね えにしのめ

信楽で「福祉のまちづくり」を

NPO法人 ふれ愛パーク 理事長 杉田 光さん

連載〈12〉福祉の仕事大事典

障害者スポーツ体育指導員 外池 涼子さん

建築士 市川 真理さん

連載〈13-14〉福祉の政策と生活 #04

地域福祉権利擁護事業

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

東近江市社会福祉協議会

地域福祉権利擁護事業専門員

連載〈15-16〉わたしとふくしのはなし

訪問介護事業所 もも 利用者 浦川 友記さん

スタッフ 藤岡 ミチ子さん

コラム〈17〉おすすめ映画と本

「ライフ・イズ・クライミング！」ほか

連載〈18〉フォーラム ひたすらなるつながり

連載〈19-20〉県社協レポート 地域福祉課

寄稿〈22〉しが福祉論壇

子どもたちとの答え合わせ

社会福祉法人 六心会 高口 誠さん

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 広報誌

季刊 ひたすらなるつながり

2024年11月15日発行

通巻14号

発行人 市川 忠稔

〒525-0072 草津市笠山七丁目 8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会



高齢者の日常生活に関わる仕事、  
障害のある人の社会生活に関わる仕事、  
就学前の乳幼児の育ちに関わる仕事、  
困りごとを抱える人の相談を受けて  
必要な福祉サービスの利用環境をつくる仕事など、  
福祉の仕事はなんといっても多彩です。

共通点、それは人が幸せに生きていくことを  
応援する仕事であること。

今号の特集は、進路や将来の自分のキャリアについて  
考えている学生の皆さんはもちろん、そんな若者を見守り、  
背中を押してくれるご家族や先生、人生の先輩にも  
ぜひお読みいただきたいと企画しました。

滋賀で福祉の仕事と楽しく生きる！  
そんな一歩を踏み出しませんか？  
ステキな仲間が待っています。

人が好き。  
人のくらしに関わる仕事が好き。  
福祉の仕事と楽しく生きる。



社会活動家／  
東京大学特任教授  
湯浅 誠さん

## ふくし 福祉論壇 ろんだん

### 地方創生と福祉

政府が「地方創生」という言葉を産み出してから10年が経ったが、より重要な転換は2002年の「地域活性化」事業の創設だったろう。

それまでは全国総合開発の一環としての「地域総合開発」であり、それは端的に道路や橋、土地改良などの建設系公共事業の地方誘致を意味していた。だから、その差配権限が永田町・霞ヶ関の権力の源泉であり、それに働きかけられる「中央とのパイプ」が地方政治家の権力の源泉だった。

「地域活性化」は、言葉自体はまったくニュートラルだが、含意としては建設系公共事業からの転換を志向していた。背景にあったのは小泉改革による公共事業費の削減だ。建設系公共事業に頼らず、地方の創意工夫で生き残れというメッセージは「地方創生」でより明確になったが、基本路線は「地域活性化」で定められていたのだろうと思う。

公共事業誘致に頼りきれなくなった地方は、企業の工場誘致、自然エネルギー、農産物の特産化・6次産業化、観光等々で事業と財源の多様化を図ったが、「福祉」もその中の一つだった。建設系公共事業に代わって福祉系公共事業に活路を見出した建設事業者など、「あからさま」で「わかりやすい」事例もあった。

地方創生における「福祉」の強みは、雇用の量が高齢化を背景に増加傾向にあること、全国一律の報酬体系が地域間賃金格差を生み出し

にくく、雇用の質も一定担保されていることだ。そう考えると、為替相場に左右される観光や自動化が進む工場などに比べて、雇用の質量ともに「安定」していると言えるように思うのだが、福祉で地方創生、福祉でまちおこしと公言している自治体がそこまで多くないように思う。また、福祉で働く人たちに「私たちが地域経済を支えているんだ」と、公共事業華やかかなりし頃の建設事業者のような自負はあまり見られないように思う。なぜなんだろう。

福祉で「稼ぐ」のには、やはり何か後ろめたい感じがあるのだろうか。どこまでニーズがあるか正直あやしい道路を作ること、関係者がそんなに後ろめたさを感じているように見えないのに（私が知らないだけで実際は感じているのかもしれないが）、福祉の人たちはマジメすぎるのだろうか。それとも「他人の稼いだ金を使っているだけ」というレッテルを、福祉に携わる人たち自身が内面化してしまっているからなのだろうか。

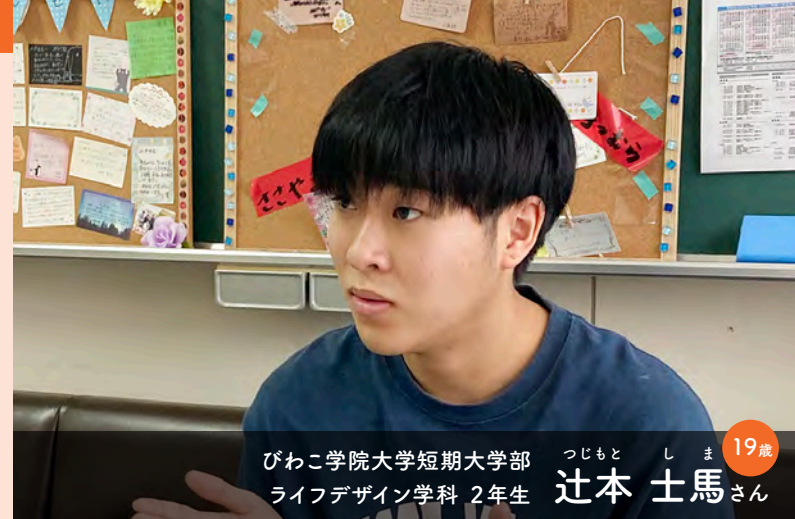
今号は福祉人材がテーマで、背景の一つには福祉人材難があると言う。他業種に比べての強みも相対的にはあるように私は思っているのだが、それがそうなのか違うのか、強みがあるとして、それが活かされているのかいないのか、たくさんのヒントを得られる号になることを期待する。



社会福祉法人 琵琶湖愛輪会 にしち のぶり 35歳  
特別養護老人ホーム 松の浦湯治の郷 事務長 **西地 宣徳** さん

## Interview インタビュー 02

特別養護老人ホーム松の浦湯治の郷で生活相談員や介護職を経て今は事務長として働く西地さん。大学生の時に芽生えた価値観や今後の展望についてうかがいました。



びわこ学院大学短期大学部 つじもと し ま 19歳  
ライフデザイン学科 2年生 **辻本 士馬** さん

## Interview インタビュー 01

介護福祉のスペシャリストを目指して大学で日々、勉強・実習に励んでいる辻本さんに介護の仕事に興味を持ったきっかけや目指す介護福祉士像などをうかがいました。

介護の仕事に興味を持ったきっかけ

小学生の時に、公園で高齢者の方が倒れたことがありました。何とかしなきゃと周りに助けを呼ぶなどして感謝されたことがとても心に残っています。当時は強く意識していませんでしたが、これが高齢者と関わることに興味を持つきっかけでした。

また、母が介護職で「人手が足りないから来て」と言われて高校2年生から高齢者グループホームでアルバイトをしています。最初は排泄介助に抵抗がありましたが、実際にやってみると「あれ、意外といけるぞ」という感触でした。「ありがとう」と言ってもらえるとうれしくて温かい気持ちになり、今では、もししたらご利用者は生活しやすくなるだろう、もっとうしろにしたいかな、と考えるようになります。介護って面白いなと感じています。



ゼミの先生の言葉

大学入学時は福祉の仕事に特に興味はなく法学部に入りましたが、実は家業が社会福祉法人ということもあり、産業社会学部に転籍しました。ゼミの先生から「認知症の方も、勉強、青春、恋、結婚、仕事、子育て、死別・・・など私たちと同じようにそれぞれに歩んでこられ、そして今、『老い』という過程にあるだけ。元から認知症という状態ではない。この視点を持たずして尊厳やプライドをないがしろにするような関わりをされたらあなたはこういう気持ちになりますか？」この言葉が自分の価値観に深く刺さり、福祉分野でキャリアを積んでいくきっかけになりました。

介護のここが面白い！

利用者さんとの関わりには正解がありません。他職種とも連携して最善のケアを模索する中で利用者さんに変化が見られた瞬間はとてもうれしいし、この仕事の面白みだと思います。利用者の方からたくさん「ありがとう」の言葉を

進路選択とこれからのキャリアについて

実は高校卒業後は福祉分野以外で就職するつもりでしたが「自分が長く働きたいと思える仕事」と考えた時に、やはり介護の道だ！と思い、介護福祉士の資格取得のためびわこ学院大学への進学を決めました。施設実習に行くと、とてもキラキラと輝いて見える職員さんがいます。質問しても根拠のある答えをしてくださるので「プロだなあ」と感じます。私も学校で学んだことをしっかりと活かし、プロとしての専門性を周りの職員さんや仲間たちにも伝えられる、そんなカッコいい介護のプロになりたいです！

指導教員・山ノ井勉先生より

楽しくも苦しく、悩みながらも一步一步成長しました。まだまだプロフェッショナルとしては未熟ですが、介護職員という次のステージで大きく羽ばたいてくれると信じています。

介護業界のキャリアについて

ただしますが、それに甘えず「何のため・誰のためにやるのか」という問いに向き合い続ける仕事の使命感は強く、やりがいと感じています。

ずっと現場で利用者さんに関わりたいたいという職員もいれば管理的な立場になって施設を変えたいと思う職員もいます。経験年数だけでなく、職員のキャリアへのニーズとその適性をきちんとすり合わせていくことが大切だと考えています。ちなみに、私の施設では比較的若い職員がリーダーとして多く活躍しています。

私としては、今は事務長としての立場がありますが、社会福祉法人として施設、分野からはみ出して地域全体の視点をもった取り組みを描いています。オールジャンルの地域の方々が行き交う、そんな場づくりをしたいと考えています。



特別養護老人ホーム  
松の浦湯治の郷  
大津市大物668



「夢を語ることができる世界を目指す」を施設方針とする定員80名の特別養護老人ホームです。できる限りご自宅での生活リズムを変えることなく安心して過ごしていただけるよう、ご本人の生活リズムを最優先します。地下1300mからくみ上げる天然温泉が魅力です。



びわこ学院大学短期大学部  
東近江市布施町29

ライフデザイン学科は、幼稚園教諭や保育士をめざす「児童学コース」、介護福祉士をめざす「健康福祉コース」、地域を支える公務員や企業就職をめざす「キャリアデザインコース」の乳児から高齢者まで地域で暮らすひとの人生を豊かにデザインする仕事をめざす3つのコースで構成されています。



辻本さん(写真右から2人目)と山ノ井先生(写真中央)とインタビューに同席してくれた大学のご友人



拠点施設長・山崎秀樹さんより

個々人の知識や専門性がよりよく作用するために、職員の向き不向きを見極め、適材適所を大切にしています。たとえば、小川さんは会話をともしなれない時間も大切にしている相談員。話すのが苦手な利用者さんのことも惹きつけてしまう彼女は、施設にとってありがたい存在です。

また職場には、助け上手な職員もいれば、助けられ上手な職員もいます。助けられ上手な小川さんには、母のように慕う先輩職員もいて、職員同士のサポートも活発です。



開放感のあるセンターの玄関



カフェのようなセンターのサロン

### 社会福祉法人 さわらび福祉会 支援センター このゆびとまれ 湖南市大池町10-1

40年以上前に共同作業所として歴史をスタートしたさわらび福祉会。現在は、就労支援をはじめ生活介護や生活訓練、共同生活援助のための施設を多数運営しています。小川さんの働く「支援センターこのゆびとまれ」は、精神障がいのある利用者さんのステップアップを目標にさまざまな相談支援に取り組んでいます。



社会福祉法人 さわらび福祉会  
支援センターこのゆびとまれ 主任相談員 小川 恵理さん

## Interview インタビュー 03

支援センター「このゆびとまれ」で相談員として勤務している小川恵理さんに、相談員の仕事の魅力やそこにかかる思いをうかがいました。



「福祉を職業にしよう」と、最初から決めていたわけではない」と語る小川さん。専門職を志す友人たちとの出会いや、大学の実習で訪れた事業所での日々が、ゆるやかに小川さんを変えたようです。「実習先で利用者さんから元気をもらったり、社会人の先輩として、いろいろなことを教えてもらったりしました。現場で働くのが楽しいと感じました」。そんな時間の積み重ねが、小川さんを現在の仕事に導きました。

福祉職への道は、徐々に  
つながっていった

滋賀県介護・福祉人材センターでは、滋賀県の福祉現場で働く方や  
そこに興味のある方に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

#### 取り組み 01

業界の先輩とゆるく語らう

ふく・楽CAFE



かいご・ふくしの  
シゴトWeb  
ふく楽・CAFEページ



滋賀の福祉現場で働く魅力的な職員との対話の場です。対話を通して、福祉の仕事の魅力ややりがい、多様な働き方など「ふくしの仕事と楽しく生きる」を感じてもらうことで、働く意欲の高揚を図ります。2014年にスタートし、たくさんの方の進路選択・職業選択につながっています。

#### 取り組み 02

高校生に福祉のステキを伝える

しがけあアンバサダー



しがけあ  
アンバサダー  
ウェブサイト



2023年11月に県内の介護現場の若手職員の中から選出された7人で、「介護でミライをかえていく」をテーマに、介護の仕事の魅力をよりたくさんの方へ発信しています。熱い思いを持つアンバサダーたちが、SNSやイベントなどを通して介護のリアルやミライを伝えています。

#### 家族との生活と働き方



現在は、一児の母でもある小川さん。「育児と仕事の両立は、家族や職場と相談しながら進めています。小さなことにも職場が対応してくれるのでありがたい。子どもが生まれる前にも、しんどい時には仕事のボリュームを抑えてもらいました」

小川さんは、今年で入職11年目です。「家庭の事情で出勤できない日が増えても、他の場面でサポートに入るなどして、自分に役割があることを実感しながら働き続けられています」

「相談員とは、人との出会い、経験してきたことすべてを活かせる職業」だと、小川さんは言います。失敗、諦め、挫折……。このゆびとまれ」の利用者さんには、そんな体験をされた方も少なくありません。小川さんは、自身の経験を思い出しながら寄り添い、言葉を選びます。「うまくいかないことがあっても、利用者さんの『挑戦できた』を大事にしたい。時には、利用者さんから暮らしの知恵や地域の情報を教えてもらいます。私は、就職と同時に一人暮らしを始めたので、当時はいっぱいアドバイスをもらいました」。「現場で働くことは楽しい」と語る小川さん。「結局、なにが良かったのかはやってみないとわからない。よりさまざまな人に現場の面白さを知ってもらえたらうれしいです」



仕事の魅力は、互いの  
経験が重なり合うこと



ワークステーションわかたけ

## 今回の「福祉の仕事職場見学バスツアー」行程

- 1 社会福祉法人 びわこ学園 医療福祉センター野洲（野洲市）
- 2 特定非営利活動法人 ゆうらいふ リハビリサポートすいれん（守山市）
- 3 社会福祉法人 若竹会 ワークステーションわかたけ（草津市）
- 4 社会福祉法人 誠光福祉会 特別養護老人ホーム えんゆうの郷（草津市）



**川崎さん** 保育園と高齢者施設が隣接している法人を見学しました。小さな子どもと高齢者が一緒に遊んでいて、あたたかい家庭のような雰囲気があり、とてもいい環境だなと思いました。

**石原さん** 高齢者施設がとてもきれいで明るくて驚きました！

**川崎さん** 本当に！小学生の頃、ひいおばあさんが特別養護老人ホームに入所していて、休みの日に家族で会いに行っていました。病院

実際にバスツアーを体験して、どんな印象を持ちましたか？



びわこ学園にて集合写真。  
見学先の施設の方も一緒にバスで巡りました。

若い人の声を聞けたり、他法人の方と交流したり、とても刺激になります。

今後のバスツアーなども参加は考えていますか？

のように消毒液のにおいがして、暗くて怖い印象がありました。今回見学した施設は、太陽の光が入る明るい施設で、居心地がよく、利用者さんも楽しそうで、印象が変わりました。

**石原さん** 今回のバスツアーにも参加予定です。次回も4カ所の施設を見学できるそうなので、いろいろな施設を知って、助産師を目指しながらも、自分に合った仕事を見つけないかと思っています。

さまざまな施設を見学した彼女たち。これからも人の命と暮らしに関わるいくつかの現場に触れ、医療や福祉の分野で活躍してね！



※八幡高校社会福祉部 1971（昭和46）年に設立された伝統ある部活動。現在約100名の部員が活動している。

## 取り組み 03

## 福祉の仕事職場見学バスツアー



## 社会福祉に関心を持つ2人の高校生インタビュー

令和6年7月27日に本会介護・福祉人材センター（以下、人材センター）が実施した、福祉の仕事職場見学バスツアー（以下、バスツアー）に、5名が参加されました。人材センターでは、以前から同様のバスツアーを複数回開催していますが、今回は高校生・大学生を対象を絞って実施しました。バスツアーに参加した生徒のうち2人にインタビューしました。



まずはお2人のことについて教えてください。

**川崎さん** 小学生の頃に授業で出会った助産師さんに憧れて、助産師を目指して看護科がある八幡高校に進学しました。社会福祉部※に所属し、保育園でのボランティア活動などを行っています。

**石原さん** 私も、中学生の頃から助産師を目指しています。川崎さんとは同じ大学に進学して助産師になるために勉強する予定です。



滋賀県立八幡高等学校 看護科3年生  
川崎美莉愛さん 石原奏弥さん

今回のバスツアーは助産師の仕事を知ることができた内容ではありましたが、なぜ参加されたのでしょうか？

**川崎さん** 社会福祉部では、日頃から保育園などでのボランティア活動は行っていますが、高齢者施設でのボランティア活動はコロナ禍以降できなくなっています。そのため、いい機会だと思いました。

**石原さん** 今回のバスツアーは1日で4カ所を見学することができ、貴重な機会だと思い、参加しました。



リハビリサポートすいれん

福祉の仕事については、人材センターに  
お気軽にお問い合わせください！

✉ [jinzai@shigashakyo.jp](mailto:jinzai@shigashakyo.jp)

☎ 077-567-3925

滋賀県かいご・ふくしのシゴトWeb  
<https://fukushi.shiga.jp/>



介護・福祉の仕事に関心がある皆さまへ  
～学生さん、転職をお考えの方～

「ツアーや体験に参加したい！」「資格や助成金のことをもっと知りたい！」など、福祉の職場について関心のある方にさまざまな情報やプログラムを提供しています。

キャリア支援に関わる皆さまへ  
～高校・大学関係者の方～

学校ごとにセミナーや事業所見学ツアーを企画したり、福祉現場で活躍する若手職員を派遣したり、キャリア支援担当者と介護・福祉分野に関心をお持ちの学生さんをサポートします。

一緒に働く仲間をお探しの皆さまへ  
～介護・福祉事業者の方～

県内唯一の「介護・福祉専門の無料職業紹介所」として、福祉事業者と求職者をつなぐお手伝いをしています。求人、他、見学や体験の受け入れ、職場説明会などについてもご相談ください。



車いすでもアクセスできる、バリアフリーそば畑(写真上)と  
収穫したそばを使った地域交流イベント「そば打ち体験道場」(写真下)



グループホームの運営や送迎  
法人化で3つの事業を展開

ボランティアや地域の保育園  
児がそばの栽培などに参加、収  
穫したそばを使って地域交流イ  
ベントも頻繁に開催しました。  
県や民間の補助金を活用し、一  
級建築士や大工である住民らの  
協力を得て、そば打ちの施設も  
建設。「そば打ち体験道場」など  
多彩な取り組みを展開しました。

そばづくりを軸に「福祉のま  
ちづくり」に取り組む「ふれ愛  
パーク」は、2003年、家事や  
送迎などの活動をするボラン  
ティアグループ「信楽メンテナ  
ンスクラブ」と合併して「NPO  
法人ふれ愛パーク」となります。  
ちょうどこのころ、障害者向け  
のグループホーム「はなみずき」、  
続いてアパート型グループホー  
ム「やまつつじ」の運営を任せら  
れることになり、資金面の安定を  
もたらしめました。



アパート型グループホーム「やまつつじ」(写真上)と  
家庭的な雰囲気のグループホーム「はなみずき」(写真下)

「グループホームのスタッフ  
は、地域住民やボランティアが  
中心。専門的な知識や資格はな  
いけれど、温かいサポートの提  
供が特徴でした。単に生活を支  
援するだけでなく、利用者が自  
立し、尊厳を持って生活できる  
ようにサポートすることを掲げ  
ました」。杉田さんは、「自立」を  
目標にした生活支援が、福祉の  
まちづくりの一環として重要だ  
と考えていました。お金の管理  
や日常生活のスキルを向上させ  
るための支援の提供にも力を入  
れていきました。

特にメンバーの高齢化が深刻な  
問題となり、そばづくりやそば  
打ち体験などの活動は徐々に縮  
小。また、コロナ禍の影響で、イ  
ベントも大幅に減少しました。  
グループホームの利用者も高齢  
化し、担い手や資金の不足も課  
題になってきました。

「それぞれの活動を継続する  
ことが目的になってしまっは  
いけない。ふれ愛パークの存在  
意義をしっかりと見極めながら、  
活動していきかた。その視  
点をもって、試行錯誤を始めま  
した」。杉田さんは、岐路に立た  
された今こそ、もう一度原点に  
返ろうと考えました。それは、  
「すべての人々が支え合いなが  
ら生活できるまちを目指して活  
動する」ということでした。

## 信楽で「福祉のまちづくり」を

NPO法人 ふれ愛パーク 理事長 杉田 光さん



滋賀県信楽町で、まちづくりに取り組むNPO法人ふれ愛パーク。  
その理事長を務める杉田光さんは、「信楽らしい福祉のまち」をつくるべく、  
地域住民とともに活動に励んできました。障害の有無や世代を超え、あら  
ゆる人を巻き込んだバリアフリーの取り組みは、どのような軌跡を描いて  
きたのでしょうか。

「ふれ愛パーク」の始まりは、  
杉田さんが母親の故郷である信  
楽町に愛知県から移住し、信楽  
町社会福祉協議会の職員となっ  
たことでした。仕事の一端で取  
り組んでいた「福祉のまちづく  
り委員会」で、ボランティアや福  
祉施設の関係者、地域住民が集  
まり、信楽を「福祉のまち」とし  
て振り返り、未来に向けてさま  
ざまな意見を交換していました。  
「信楽の地は、池田太郎先生が  
種を蒔いて『福祉のまち』と言わ  
れている。けれど、本当に『福祉  
のまち』になっているのか、議論  
しました」。杉田さん自身も、信  
楽は障害者を自然に受け入れる  
風土を持つ一方で、地域の閉鎖  
性も強く残り、二面性があるよ  
うに感じていました。

信楽らしいまちづくりをやる  
う」という思いのもと、新しい挑  
戦が始まりました。

委員会の活動を通じて、さま  
ざまなアイデアが生まれました。  
そのひとつが「バリアフリーそ  
ば畑」のプロジェクトです。地域  
のそば畑の所有者で車いすユー  
ザーの岡本幸助さんから「うち  
の田んぼを使ってはどうか」と  
の提案。みんなですばをつくり、  
車いすの人でもそば畑にアクセ  
スできるよう、コンクリートの道  
を設けるなど工夫をしました。

障害のある人も、子どももお  
年寄りも、地域にもともと住ん  
でいる人も移住者も、さまざま  
な人が自然と触れ合いながら地  
域のことを考える場所になりま  
した。「そばづくりやそば打ちを  
通して、バリアフリーが実現で  
きる」。杉田さんたちが思い描い  
た「福祉のまちづくり」でした。

※池田太郎：糸賀一雄、田村一二と  
ともに近江学園を創立した教育者。  
信楽寮(現信楽学園)、信楽青年寮の  
開設にも尽力し、信楽町名誉町民。



### 福祉現場の気づきから実践へ

現行の制度で解決できない生活課題、地域の  
福祉課題に気づいた「滋賀の福祉人」たちが、  
課題解決に向けて実践しているさまざまな  
取り組みをご紹介します。



たか

真の「福祉のまち」を目指して  
そば畑がつくるバリアフリーの環境

# 福祉の仕事大事典

第11号の特集でご好評いただいた「福祉の仕事大事典」。福祉にまつわる仕事は一言では表すことができないほど多岐にわたり、活躍の場面もさまざまです。今回は、障害者スポーツに関わる仕事と高齢者の生活環境を支える仕事をご紹介します。

## 障害者スポーツ 体育指導員

滋賀県立障害者福祉センター

とのいけ  
外池 涼子さん



①大学で受講した「障害者スポーツ」の授業が興味深く、もともとバスケットボールをしていたことから、車いすバスケットボール大会の審判の補助員を経験したのが始まりでした。その後、インターンシップで訪れた今の職場は目に映るすべてが新しく、利用者さんとのふれあいや職場の温かく明るい雰囲気から、就職するならこういう職場が良いと思ったのが大きなきっかけとなりました。

②当センターでは、障害のある方々の福祉増進のため、障害者スポーツ指導事業や障害者文化教養向上事業等を行っており、地域の方と障害のある方との交流・憩いの場となることを目指しています。私は主にスポーツ指導事業を担当していて、具体的には、知的障害者のバスケットボール選手育成、未就学児や小学生を対象に体の使い方の指導を行う事業もあります。他には、障害のない方向けの障害者スポーツの体験指導や、貸館業務の一環でアリーナやプールの監視業務もしています。

③指導する立場ではありますが、教えてもらっているという感覚が常にあります。障害の特性や一人ひとりの状況に合わせて指導が必要となるため、どんなことに困っているか等教えていただき、どうしたら上手くできるかを一緒に考えます。その都度、新しい発見があり、できなかったことができた時には一緒に喜び合えるのがとてもうれしく、日々のやり取りの中で私自身が元気をいただいています。また、利用されるお子さんの成長過程を間近で見られる等、長い関係性を築いていけるのも魅力のひとつです。



車いすバスケットボールを  
実際にプレイする外池さん

## 建築士

有限会社 市川工務店 市川 真理さん



①前職の看護師を退職後に家業の工務店を手伝う中で、施主さんとの打ち合わせに同行。家づくり全体を計画できるよう、建築士やインテリアコーディネーターの資格を取得しました。病院を退院後に自宅で不安なく暮らしたいのは当たり前なので、在宅介護や福祉住環境についても勉強しました。施主さんの希望や課題の本質を整理し、計画を立てるプロセスは前職と同じだと感じています。

②個人宅の新築や住宅改修を行っています。医療現場で培った異常の早期発見と状態悪化防止の観点で、福祉用具や住宅改修により環境を調整し、自宅で快適に生活するお手伝いをしています。介護保険制度を利用する住宅改修とライフステージの変化によるリフォーム、この2つに考え方の大きな違いはなく、身体の状態や課題をうかがったり、ケアマネジャーから住宅改修の構想をいただいたりなどして、ご本人とご自宅の状態に合った改修を提案します。既存の福祉用具が合わない場合は、オリジナルの福祉用具を提案・製作することもあります。

③目の前の人にとって、何が一番よい家づくり／住宅改修なのかを常に意識しています。一般には、建築士にも「福祉に関わる仕事」があると知っている方は少ないかもしれませんが、これまで関わった方には、家のことで何かあったときに気軽に相談できる安心感があると言っていただいています。建築士が、医療・福祉の方と協働し、福祉の視点を持つ「家づくり」の専門職として暮らしを支援することができる職業であることをぜひ知ってください。



玄関ポーチに設置された  
段差解消のためのスロープ

①福祉に関わるきっかけ ②現在の仕事内容 ③仕事のやりがい



ひきこもりの人たちに社会参加の機会を  
地域のニーズにアプローチする拠点に

自身を「理想主義者」と表現する杉田さん。「理想を掲げることにはやめない。ただ、現実とのバランスを取りながら、地域福祉の発展に貢献し続けよう」。そんな思いで、社協を定年後も一住民として地域に根ざした活動を続けることを決意しました。

「地域に今、何が必要なのか。そこを見つめて、柔軟に対応しながら、無理のない範囲で動く。大切なのは、活動を途切れさせないこと、在り続けること」と考え、これまでの活動を見直し、地域のニーズに応じるかたちで緩やかに福祉活動を広げています。

まず、今後も需要が高まると考えている「送迎サービス」。地域の公共交通機関が乏しい中で、重要な役割を果たすことが想像されます。持続可能なサービスにするために、料金の改定に着手しました。「送迎サービスを利

用しなくても、地域の助け合いの中で補える部分もある。そこは大事にしつつ、本当に困っている人の力になれるように」という思いを持っています。

次に、そばづくりやそば打ちを中心にした活動は、収穫したそばからつくるそば粉とそばの実、そばの実をローストしたそば茶などを販売する事業へと軸足を移しました。そして、そばから商品をつくりたり販売したりする作業には、ひきこもりの人たちが参加しています。収穫したそばの実を選別してもらったり、そばを販売するときの「ポップ」を描いてもらったり。それぞれの得意なことに合わせて作業を頼んでいます。

「最初は、保健師さんからひきこもりの人を受け入れてもらえないかと相談があり、『居場所』を提供する感覚だった」という杉田さん。定期的に通って来られる中で、交通費というかたちでお金を渡すことになりました。すると、変化が起きました。「その方にとっては、働いてお金をもらうのは初めての経験。や

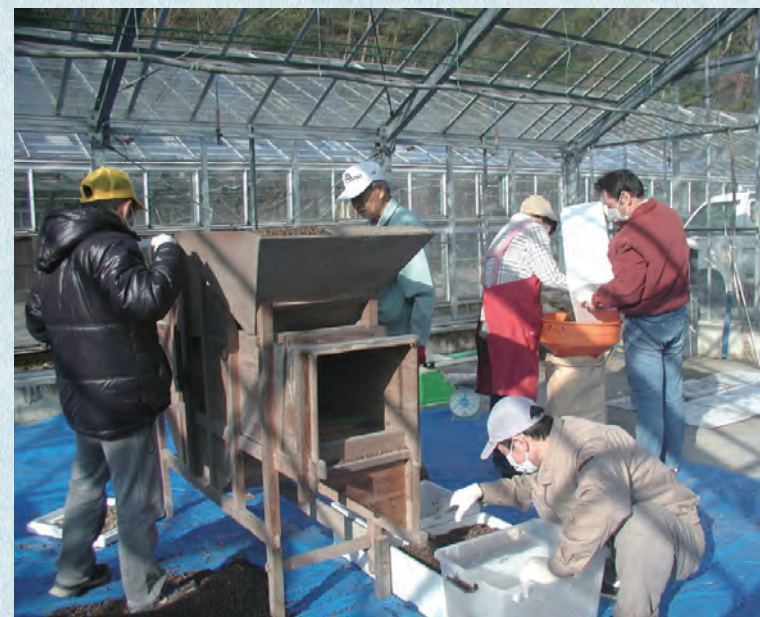
りがいを感じられたのか、意欲的に取り組んでもらえるようになったのです」。社会参加の機会を提供し、少しずつではありませんが、収入も得られる仕組みがつくられてきています。

「社会に出るためのステップとしても、ここを使っていたきたい」と杉田さん。障害があつたり、ひきこもりがちだったり、さまざまな人たちの居場所となり、力を発揮できる場となる可能性を感じています。

時代とともに活動の内容は変わっても「福祉のまちづくり」という理念は変わりません。「ニーズを見落とさず、そこにアプローチできる場が、ふれ愛パークなのではないでしょうか。これからは自分を中心になるのではなく、気持ちやアイデアのある地域の人たちに、ぜひこの場を活用してもらいたい」。杉田さんはそう願っています。



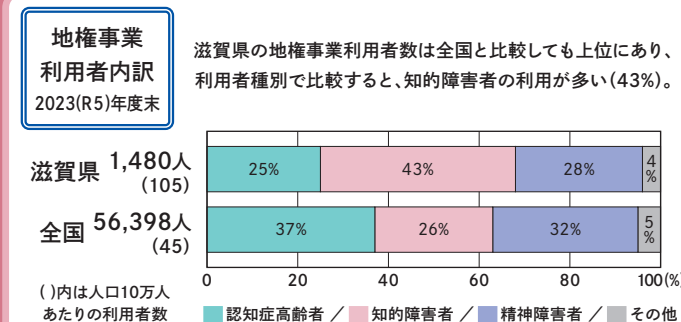
ひきこもりがちの方が選別やポップ制作に関わったそば製品



収穫したそばの実の選別作業

## #04\_地域福祉権利擁護事業

この事業は、認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などのうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助などを行う事業です。滋賀県における地域福祉権利擁護事業（以下、地権事業）は、市町社会福祉協議会（以下、市町社協）が実施主体となり、県内の利用者は、2024（令和6）年3月時点で1,480人。利用者が安心して暮らしていく上で欠かせない事業として定着しています。



# 福祉の政策と生活

Social welfare policy and life

安心して暮らすってどういうこと？  
十人十色の権利擁護支援、地権事業の現場から、

東近江市社会福祉協議会  
地域福祉権利擁護事業専門員

東近江市では、196名（令和6年8月末現在）の方が地権事業を利用されています。地権事業の取り組みを通して、認知症高齢者や知的・精神障がい者の方々の暮らしに関わる中で様々な気づきがあります。

「今日は寒かったな。今帰ってきたわ」「テレビ買いたいけどいくらする？」「私たちの事務所には、毎日たくさん電話がかかってきます。その一つ一つに一人一人の生活や気持ちをみるヒントがあります。」

私たちは、そんな何気ない会話も大切にしながら、支援したいと取り組んでいます。ある利用者の事例ですが、

## 意思決定を支える権利擁護支援

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉係

地権事業創設の背景には、それまで行政の措置により決定されていた福祉サービスが、個人の自己決定を尊重する観点から、自らがサービス提供者との契約により利用する制度に見直された社会福祉基礎構造改革があります。しかし、判断能力が必ずしも十分でない方にとって、自らサービスを選択・決定することは難しく、実情として日常的な金銭管理が難しいことも多いため、どのように支援するかが課題となっていました。

そこで、1998（平成10）年の中央社会福祉審議会社会福祉構造改革分科会の中間報告において、成年後見制度の利用や各種福祉サービスの利用を援助する制度の導入を図るべきとの考え方が整理され、都道府県社協を実施主体として「地域福祉権利擁護事業\*」が1999（平成11）年10月スタートしました。

滋賀県では、住民にとってより身近な市町社協がきめ細やかな支援をするのが望ましいという考えから、市町社協が実施主体となりました。市町社協には、年間約11万7千件（昨年度累計）もの本事業に関わる相談があり、利用者の日々の生活に寄り添った相談支援として欠かせない

事業だということがわかります。

利用者の支援をめぐる時に他の支援者と意見が異なることもあります。本人の意思を尊重し、関係者との協議を重ねながらチームで支援しています。地権事業の支援内容は、①福祉サービスの利用援助②日常的な金銭管理サービス③書類等の預かりサービスがありますが、近年は、複合的な課題を抱える世帯や買い物依存症などに悩む利用者への支援、また身寄りのない人の死後の課題など、暮らしのニーズも複雑化・多様化し、地権事業だけで住民の暮らしを支えることはできません。保険や年金、住宅施策など、地域生活に必要な幅広い分野の関係者と連携するとともに、社協の強みを生かして利用者が孤立しないよう地域への働きかけも行っています。

地権事業の対象要件は①認知症高齢者・知的障害者・精神障害者など判断能力が不十分な人②本事業の契約の内容について判断しうる能力を有していると認められる人\*\*ですが、利用者の判断能力の状態に応じて成年後見制度を含めたさまざまな支援とつながることを想定した事業でもあり、権利擁護支援の入り口としてさらなる役割を期待されています。「自分らしく生活する」という自己実現を支える事業としてより充実するよう、本会としても取り組みを進めていきます。

\* 地権事業は、2007（平成19）年4月に国庫補助の予算名称が変更され「日常生活自立支援事業」となりましたが、滋賀県では、この事業が「権利擁護」を目的とし、地域福祉と総合的に推進するという思いを込め「地域福祉権利擁護事業」の名称を使用しています。  
\*\* 療育手帳等を保有している人や認知症と診断された高齢者、また居宅において生活している人に限るものではない。

たようです。

地権事業の支援の中に、日常的な金銭管理があります。利用者や日々のお金ややりくりを一緒に相談し、ご本人からの依頼を受けてお金の払い戻しや福祉サービス利用料等の支払いを地権事業担当者が代行します。事前に払戻内容を相談する過程で不審な点に気づき、悪質な訪問販売等の被害拡大を抑止できることもあります。しかし、利用者の中には、自分が被害にあっていることに気づかない方もおられ、注意を促しても「大丈夫、あの販売員さんはとてもよくしてくれるし、信頼できる人だから」と、こちらの話を聞き入れられない場合もあります。ご本人にとつての信頼度が、地権担当よりも訪問販売員に傾いていました。支援者としては、利用者の気持ちに寄り添い切れなかった悔しさを感じると同時に、もう一歩先を

考えることが必要だと感じました。つまり、利用者が日頃から、自分の困りごとや悩みを打ち明けたり、相談したりすることができ、安心して地域生活が送れる環境や人との関係性をつくる必要なのだと思います。

最近では、スマートフォンやSNSの普及により、顔の見えない相手とのやり取りから、人間関係や金銭が絡む予期せぬトラブルに発展する等、新たな課題も出てきており、社会の流れに合わせた対応が求められています。地権事業だけでは、利用者の暮らしや権利を護ることはできません。日頃、利用者に関わりのある福祉関係機関をはじめ、ご近所さんや自治会、民生委員・児童委員らとも協力し、ご本人を真ん中に、身近なところで困りごとや悩みに寄り添えるような支援の輪を広げていきたいと思っています。



# わたしはふくしの はなし

福祉に関わる方がどのような想いを持っているのか。

このコーナーでは、普段なかなか聞けない声

“届かない声”に焦点を当て、さまざまな立場から

福祉に関わられている方の想いを伝えていきます。

医療的ケアが必要な方とその在宅生活を支える方々のお話を前号に続いて、お届けします。

今号は、前編の前号で紹介した福井アサ子さんが、管理者を務める訪問介護事業所ももの利用者で、全介助が必要な長女・琴音さんと暮らす浦川友記さんとその支援にあたるものスタッフ藤岡ミチ子さんにお話をうかがいました。



前編となる前号(vol.13)は、滋賀県社会福祉協議会のウェブサイトからもご覧いただけます。  
トップページ>広報物>[ひたすらなるつながり]検索



訪問介護事業所ももの利用者 浦川 友記さん

ておられたのです。当時、次女は小学生。どこに行くにも呼吸器をつけた琴音と一緒に、行ける場所が限られ、習い事の送迎も知人に頼んでいました。もものスタッフの方がそんな生活を知り「それはあかん。土曜日に琴ちゃん(長女)を見てるから出かけておいで」と勧めてもらい、サービスを利用しました。

以前に大津市の日中一時支援を利用した時は、申請時に「お母さん、何のご用事ですか」と尋ねられました。「ちょっと遊びに」など、とても言えない雰囲気でした。子どもを預けて出かけるのは迷惑をかけることだと思っていたので「たまにはゆっくりして」と言っていたら、最初は「いいのかな」と戸惑いもありました。

定期的に利用し、次女と一緒に買い物をして、習い事の送迎も自分でできるようになると、琴音を人に任せて出かけることも次第に楽しめるようになりました。何かと遠慮していた次女も「お出かけしたい」と素直に言ってくれるようになり、うれしかったです。

長女の琴音は寝たきりで、人工呼吸器をつけていて目が離せず、全介助が必要です。交通事故の後遺症で3歳の時に医療的ケアが必要になり、18年間ほぼ1人で介助を担ってきました。長女を含めて3人の子どもを育てていたので、不自由はたくさんありました。

3歳と言えば子育て真っ盛りの時期。大変なのに介助を1人で担っていたのは「子育ての延長」だったからです。生まれつき障害がある子を育てるお母さんたちも、同じような気持ちではないでしょうか。

琴音が高校に進学した頃、医療的ケアができる居宅介護支援事業所「もも」に出会いました。長男の同級生のお母さまが働い



浦川さんと長女の琴音さん

交通事故で一度止まった心臓が動き出し、つながった奇跡の命。「あの時に命が終わった方がよかったのか」などと悲しいことを考えなくてもいい世の中にしたい。みんなに関わってもらい「救われてよかったね」と思いたいのです。

夜中も人工呼吸器の回路にたまる水を取り除いたり、体の向きを変えたりするために、約2時間おきに起きて確認する生活だったのも、スタッフの藤岡ミチ子さんから、夜間の重度訪問介護サービスを勧められていました。「ぐっすり眠れる日をつくりましょう」と提案していただき、思いきって今年から利用を始めました。藤岡さんに来ていただいても、まだ夜中に目が覚めてしまいましたが、慣れたらぐっすり眠れる日が来るはずと信じて、これからも利用しようと思います。

「困ることは？」と尋ねられて思うのは「困る感覚がわからない」ということ。日常すぎるのです。そもそも使えるサービスはほとんどなく、幼少期から子どもを預ける発想がありませんでした。1人で何年間も全介助していたら、今度は預ける勇気が出ません。今となっては、もっと小さい頃から使えるサービスがあればよかったと思います。

今考えているのは「自分がいなくなった時に、娘はどう生活するか」ということです。琴音の

自立を見据えて、夫に任せる練習をしたり、外泊して家を空けてみたり。母親としてはなく、ひとりの支援者としての関わりも試みようとホームヘルパー級の資格を取りました。また、事業所の設立も考えています。医療的ケアを提供できる環境を整え、親や家族も支援者として関わることで、我が子だけでなく、他の家庭もサポートできる仕組みをつくりたいです。

シェアハウスを運営する夢もあります。障害のある子どもたちが一緒に生活し、専門のスタッフが24時間体制でケアを提供するような環境ができればいいですね。

私たちのような親子にとって、この社会はまだまだ生きづらい。そのことを広く知ってほしいです。街のバリアフリー化が進んでいます。望んでいるのは「車いすの人はあっちのスロープへ」と線を引いて分けられる社会ではないのです。みんなと一緒に段差を持ち上げてくれれば、重みがわかる。こうやって生きている私たちの思いも、少しわかってもらえるかもしれない。

## NPO法人ALSしがネット 訪問介護事業所もものスタッフ 藤岡 ミチ子さん



浦川さんは、土曜の日中に「もも」のサービスを利用しておられました。「夜中は2時間おきに目が覚めて、ほとんど眠れていない」と聞き、「だったら夜ぐっすりお休みになれる時間を持とう」と何度もお話をしました。「夜も任せていいんだ」と思いつつもきくと不安があったでしょう。長い道のりでしたが、やっと重い腰を上げていただきました。最初は、夜中2時ぐらいに「おトイレに来たんです」と言いながら、様子を見に来られたので「よく寝てますよ」と伝えました。その晩は娘さんは朝までぐっすりです。やってみたら楽なことがわかってもらえらると思っていたので、再び頼んでいた時はうれしかったです。夜中のケアをお母さんが担うと、警告音が鳴るたび起き、寝たように寝ていない日々が続きます。そういう中でご自身も年齢を重ね、疲れてきます。「子どもも独り立ちするから、自分のことも考えなきゃ。外からの援助を受けることは、自分の体と心のためにいいんだよ」と会うたびに伝えていました。浦川さんの中で少しずつ咀嚼されて「これでいいのかも」と自分で認める気持ちが出てきたのかなと思っています。

# Recommended Movies & Books

## おすすめの映画と本



### ライフ・イズ・クライミング!

△あらすじ▽

視力を失ったクライマー・コバ(小林幸一郎)と、彼の目となる視覚ガイド・ナオヤ(鈴木直也)。「右手、1時半、遠め。右、右、右!」、遠くから聞こえる相棒・ナオヤの声を自分の目のように頼り、8の字結びのロープでつながり、命をゆだねて岩を登るクライマー・コバ。世界選手権4連覇を成し遂げた2人が、米・ユタ州の大地にそびえ立つ真っ赤な砂岩フィッシャー・タワーズの尖塔に挑む姿を描いたドキュメンタリー映画。  
このとんでもない冒険の結末は?そして、その時コバはどんな景色を見るのだろうか?

この映画のバリアフリー版(日本語字幕、音声ガイド付)上映会を開催!上映終了後には、出演の小林幸一郎さんによるトークイベントを行います(手話通訳、文字サポートあり)。

COZY TOWNバリアフリー映画会 2024年12月14日(土)14時~

〈会場〉COZY TOWN(アル・プラザ彦根4F)

〈入場料〉一般500円/中学生以下300円

お申込みはウェブフォーム(右の2次元コード)、または  
☎0748-46-8100(社会福祉法人グロー地域共生部)まで。



「ライフ・イズ・クライミング!」2023年/日本/89分  
©Life Is Climbing 製作委員会/2023年5月12日公開



### ロストケア

2023年製作/114分/G/日本

©2023「ロストケア」製作委員会

△あらすじ▽

献身的な介護で他の職員や利用者の家族から慕われる介護士の斯波。ある事件の捜査の過程で、彼の働く訪問介護センター利用者の死亡率が異常に高いことに検事の友友が気づく。友友は、介護現場の現実に直面し葛藤しながらも、事件の真相に迫る。

〈監督〉前田 哲  
〈原作〉葉真中 顕  
「ロスト・ケア」  
(光文社文庫刊)  
〈出演〉  
松山ケンイチ 長澤まさみ 他  
東映ビデオ株式会社より  
DVD & Blu-ray発売中

介護士の斯波は、訪問介護センターの利用者の老人を多数殺めています、取り調べで「私は救いました」と供述します。殺人は許されることではありませんが、つらい介護から抜け出したいと思っている人も多く、斯波の行為によって「救われた」と感じる遺族が確かにいるのではないかと感じます。高齢化が進む日本で、介護は他人事ではありません。簡単に解決できる問題ではありませんが、介護をする人も、介護をされる人も守られる社会をつくっていかねばいけなくと強く思われる作品です。



### 学習まんが人物館 安藤百福

まんが:田中 顕/シナリオ:水野 光博

△あらすじ▽

百福はなぜインスタントラーメンを発明したのでしょうか?きっかけは若い頃に空腹で死にかけた経験でした。その後生涯を通じて「食」で人々を幸せにしたいと願うようになり、数々の事業を興しては失敗し、何度失敗を重ねても前を向いて進み続けました。



ある職員研修をきっかけに思い出しました。私が小学校の頃に、将来の夢として文庫に書いたことは「新しいインスタントラーメンを開発する」でした。なぜそんな夢を抱いていたのか、それはこの本(実際はもっと古い)がきっかけです。安藤百福さんの情熱、そして阪神・淡路大震災でチキンラーメンのキッチンカーが出勤し被災者のおなかと心を癒した。この事実強い憧れを抱いたのを覚えています。あなたの将来の夢は何でしたか?またそれは何がきっかけでしたか?

### 福祉論壇

「支援者の揺らぎ」。この言葉に、どんな印象をもつだろう。「支援者は揺らぐべきではない」と思うのか、「揺らぐことは悪くない」なのか、あるいは「まさに私も揺らいでいる」だろうか。

この1年、私たちは「より良い支援とは何か」を考えてきた。2000年に介護保険制度ができて、福祉サービスは契約の時代になった。利用者としてじっくり話してニーズを確かめるよりも、1枚でも多く支援計画を書き、マニュアルに沿って支援することがスタンダードになり、研修では、技術向上に向けた内容が求められる。

だが、心から「これが正解だ」と、皆思っているのだろうか。「これが正解なのか」「本当に利用者のためになっているか」と、自身に問い、答えが見つからないまま目の前の仕事に追われている支援者もいるのではないかと。揺らぐ支援者は、正解を求めて悩んでいる。「誠意ある支援者」とも言えるのではないかと。

「揺らいでいい。揺らいでいることを打ち明けられる環境の中で、揺らぎを共有できればいい」。そんな思いをもって、私たちは公開セミナーを開催した。揺らいでいる福祉関係者が、たくさん足を運んでくれた。自らの不安やジレンマを吐露し、参加者と共有する時間を過ごしてくれた。その時間の中で、龍谷大学の山田容教授は「支援者の揺らぎ」をこう考察した。

「人はなぜ揺らぐのか。それは、人は正解のない世界にいて、迷いながら手さぐりで生きているから。支援者はなぜ揺らぐのか。それは、複数の感情や価値観、要求の交差点にいて、支援者の役割には正解がないから。優先されるものは人によって違い、人のもつ多様性に、一つの正しさでは対応できない。価値観が多様であるほど、支援者が人格をもって関わることで折り合えない場面が増える。制度志向的な発想で、マニュアルに沿ってやる方が楽なのだ」

「余白」が縮小し、曖昧さが許されない社会になる中で、支援者はどう立ち振る舞えばいいのだろうか。それには、山田教授はこう提案した。「自ら揺らぐこと。揺らいでいる自分を否定せず、楽しみ、何に揺らいでいるのか整理すること。結論が出ないものをそのまま置いておくこと。当事者と一緒に揺らぎつつ、倒れないこと。揺れない構造ではなく、揺れを抑える構造をつくること」

揺らぐことは、問い続けることだと言う。「問いは世界を開く。答えは世界を閉ざす」。すなわち、揺らぐことは世界を開くことなのだ。「たくさん揺らぐ」と思います。セミナー参加者から寄せられた感想に、私たちは励まされている。

フォーラムひたすらなるつながりは2023年6月に発足した研究会で、福祉活動家の渡邊光春と6人の運営委員が毎月1回の例会で福祉現場の課題や問題意識を共有しています。



暮らしつなぐ  
 ひとをつなぐ  
 ちいきつなぐ

滋賀県では、今年 9 月から「パートナーシップ宣誓制度」が始まりました。  
 LGBT 等の当事者のおかれた現状の改善と性の多様性に関する県民の理解増進を図り、  
 すべての人の人権が尊重される豊かな社会の実現を目指そうとする制度です。  
 誰もが暮らしやすい地域づくりは、一人ひとりの理解から始まります。  
 県民のみなさまのご理解をお願いします。

-----  
 当会は、養護老人ホームやケアハウス、特別養護老人ホームなど高齢者施設等を経営する  
 滋賀県内 99 の事業所により組織し、介護サービスを安定的に提供することで、  
 ひとりひとりの暮らしを支えています。  
 平和の意味を考え、そしてできることを考え、やり遂げる。  
 社会福祉法人として、役割を果たしていきます。

事務局  
 〒525-0072  
 滋賀県草津市笠山 7 丁目 8-138 県立長寿社会福祉センター内  
 一般社団法人 滋賀県老人福祉施設協議会  
 TEL. 077-585-9380 FAX. 077-585-9381  
 Email shiroukyo@shiga-roushikyo.jp http://www.shiga-roushikyo.jp/



## 県社協レポート

滋賀県社会福祉協議会では  
 「ひたすらなるつながり」の理念のもと、  
 福祉関係者や地域のみなさんとともに、  
 さまざまな事業を実施しています。  
 このコーナーでは本会の取り組みや  
 職員の思いを紹介します。

(レポーター：地域福祉課 益田吉基)



### 地域福祉課

ハローわくわく体験事業は、  
 社会的養護の子どもたちの  
 「自立の土台づくり」につながります



県内には、さまざまな事情により、親のもとではなく、児童養護施設や里親家庭等(以下、施設等)のいわゆる社会的養護のもとで暮らす子どもが約300名います。施設等では、子どもが安定した生活環境で、安心して順調に成長できるよう、さまざまな支援を行っています。しかし、子どもたちの中には、施設等を退所後、進学しても早期に退学してしまったり、就労しても転職を繰り返し、就労が安定しなかったり、と自立までには多くの課題があります。

そこで、本会では、子どもたちが夢や希望を持って、社会に出るための取り組みとして「ハローわくわく体験事業(以下、ハロわく)」を行っています。この事業は、企業等での就労体験を通して“働くことの意識づけ”や“自分にあう仕事探し”、さらに企業の方々と交流の中で、“自分を応援してくれている人がいる”ことを知るきっかけとなります。子どもたちの「自立の土台」を形成し、将来につなげていくための取り組みで、現在194社が協力企業・団体としてご参加くださっています。

子どもたちが将来に夢や希望を持ち、自分の道を歩んでいくための応援として、次の3つの事業に取り組んでいます。

#### ハローわくわく仕事体験／工場・職場見学

夏休みなどの長期休暇を利用して、ハロわく仕事体験(中高生)や工場・職場見学(小学高学年)を行っています。夏休みに2日間、パン屋で体験をした子どもは、実際にパンをつくる工程を経験し、仕事の難しさやパンが美味しそうに焼きあがった時の喜びなどを知ることができたと話してくれました。また、企業担当の方から、自身の丁寧な仕事を褒めてもらい、自信を得るとともに、職業人からを直に話を聞くことで、自分の将来を見つめることにつながっています。

#### プロフェッショナルセミナー

企業・事業所が一堂に会し、各ブースで企業・事業所の担当の方と子どもたちが交流をするセミナーです。各ブースでは、仕事への向き合い方や働くことの意味、業務内容などを話してもらったり、その場でできる簡単な仕事体験を実施してもらったりしています。社会にさまざまな仕事があることや、プロの技術を直に見ることで“仕事”や“働く”ことへの理解を深める場となっています。このセミナーで出会った企業・事業所での就労体験につながっていく子どももいます。

#### キャリアアップセミナー

“自分自身のことを知る”きっかけづくりとして、ワークショップ型のセミナーを開催しています。子どもたち自身が、自分の好きなことや強みを知ること、向いている仕事を見つけたり、人間関係をつくる時のヒントを得たりできるようなプログラムを実施しています。



社会福祉法人 六心会  
地域密着型  
特別養護老人ホームきいと  
施設長  
高口 誠さん  
(えにしアカデミー第1期生  
／滋賀の福祉人マスター)

## ふくし 福祉論壇 ろんだん

### 子どもたちとの答え合わせ

福祉専門職としての価値を再確認する体験をした。私は大学卒業後、児童養護施設で指導員として働いていた。つい最近、その施設に入所していたかつての子どもたちに出会う機会が続いた。彼らからの「会いたい」という言葉にうれしさと不安、2つの気持ちが湧いてきた。

大人になった彼らが私を覚えていて「会いたい」と思ってくれたことや、成長した彼らと十数年ぶりに話ができるという「うれしさ」。その一方で、施設生活をしてきた彼らにとって身近な大人であり、親代わりでもあった私がどのように映っていたのか、という「不安」。専門性も浅い若者の私が、さも彼らの全てを知っているような姿勢で関わっていたことを思い出し、申し訳ない気持ちが強くなった。

私は自分に自信がない。自分を信じられないとも言える。そんな自分を知っているからこそ、その時できる最善を尽くす。当時の私は彼らに対し、福祉専門職として未熟ながらも、がむしゃらに関わっていた。しかしそれは自己評価である。彼らがどう感じていたのかフィードバックを受けよう。答え合わせをするつもりで再会当日を迎えた。「変わってないね」再会したかつての子どもたちから言われた。「見た目はまあ…。でも話し方、聞き方、ジェスチャーはそのまま」と言う。彼らの思い出話には、私は覚えていない日常のささいな場面の言葉や行動がたくさんあった。「そんな言動

を子どもの時はどう感じていた？大人になってどう思う？」と彼らに聞いてみた。「厳しかった。でもそれ以上に一緒にいて楽しくて、安心できた。言ってくれたり、してくれたりしたことは思いがあったからこそだと、自分が大人になり親になってよくわかる」と。福祉専門職冥利に尽きる最高のフィードバックである。こんなうれしい言葉をもらえるとは思っておらず舞い上がった。彼らとの再会を通して再確認できたことが2つある。

1つは、福祉専門職は専門性をもとに具体的な支援を行うが、その行動の原動力は「困っている人の助けになりたい」という気持ちであり、それは相手に伝わるということ。

2つめは、フィードバックは福祉専門職として成長するには欠かせず、だからこそフィードバックの言葉は相手の成長に影響するということ。子育ても、人材育成も共通するのは成長を待つということだと思う。成長とは相手に期待するものではなく、相手が成長できるように育てる側が努力し、関わり続けることであろう。苦勞する価値がある、それが人を育てることだと思う。現在、私は高齢者分野にフィールドを移し、人材育成に関わっている。福祉職を目指した原点と明日からの励みになる言葉。専門職として、人を育てる立場として、改めて大切な学びを得た体験であった。

令和6年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

# 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料(1名あたり) 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

| プラン     |                      | 基本プラン                    | 天災・地震補償プラン |  |
|---------|----------------------|--------------------------|------------|--|
| 保険金の種類  |                      |                          |            |  |
| ケガの補償   | 死亡保険金                | 1,040万円                  |            |  |
|         | 後遺障害保険金              | 1,040万円(限度額)             |            |  |
|         | 入院保険金日額              | 6,500円                   |            |  |
|         | 手術保険金                | 入院中の手術                   | 65,000円    |  |
|         |                      | 外来の手術                    | 32,500円    |  |
|         | 通院保険金日額              | 4,000円                   |            |  |
|         | 特定感染症                | 補償開始日から補償 <sup>(*)</sup> |            |  |
|         | 地震・噴火・津波による死傷        | ×                        | ○          |  |
| 賠償責任の補償 | 賠償責任保険金<br>(対人・対物共通) | 5億円(限度額)                 |            |  |
| 年間保険料   |                      | 350円                     | 500円       |  |

\*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。  
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

### <重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

## ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

## 送迎サービス補償 (傷害保険)

## 福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667  
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ23-11315より抜粋〉